

第36回（2004年度）サントリー音楽賞は 西村 朗 氏に決定

財団法人 サントリー音楽財団（理事長・堤 剛）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第36回（2004年度）受賞者を西村 朗氏に決定しました。

●選考経過

1. 2005年1月10日（月・祝）東京・丸の内の東京會館において、選考委員9名により第一次選考を行い、「候補者」を選定した。
2. 引き続き3月15日（火）東京・港区台場のサントリー株式会社において最終選考会を開催、選考委員9名により慎重な審議の結果、第36回（2004年度）サントリー音楽賞受賞者に西村 朗氏が選定され、翌16日（水）理事会において正式に決定された。

●賞金は700万円。

●西村 朗氏の贈賞理由は別紙のとおり。

●選考委員は下記の9氏。

磯山 雅・伊東信宏・岡田暁生・岡部真一郎・白石美雪
榎崎洋子・沼野雄司・船山 隆・三宅幸夫

（敬称略・50音順）

西村 朗（作曲）

<贈賞理由>

西村朗氏は現代日本を代表する作曲家のひとりで、2004年度もエネルギッシュな創作活動を展開した。

当該年度に日本で初演されたのは『室内交響曲第2番』（2月11日・いずみホール）、『秘水変幻～横笛と二十弦箏のための～』（3月20日・紀尾井ホール）、『夢幻の光』（7月24日・紀尾井ホール）、『涅槃と輪廻～萩原朔太郎の詩による二つの歌曲～』（11月5日・津田ホール）、『風媒～ハープと室内オーケストラのための～』（11月11日・紀尾井ホール）などである。オーケストラ作品においては西村氏が初期から追求してきたヘテロフォニーの手法がより高次の局面に向けて充実してきた。一方『夢幻の光』においては雅楽から新しい響きをひきだした。さまざまな表現媒体を駆使して、確実に自己の音楽観を現実の響きにしてゆくプロセスを見るにつけても、氏の強靱な意志力と、それを実現する高度な技術力に驚嘆せざるを得ない。

また、いずみシンフォニエッタ大阪音楽監督、いずみホールにおける現代音楽シリーズ「新・音楽の未来への旅」の企画監修、東京音楽大学教授としての教育活動、ならびに日本作曲家協議会理事としての社会的活動など、日本の音楽界に対する西村氏の多大な貢献も高く評価すべきである。さらには『ピアノ協奏曲第3番～シャーマン～』（3月1日・ドイツ／ロイトリンゲン）の新作初演をおこなうなど、活動の範囲を海外にまで広げていることも見逃してはならないだろう。

以上のように、西村朗氏は凝縮された、かつ息の長い作風によって群を抜いた存在であり、これからの創作活動にもさらなる実りが期待できる。

<略 歴>

1953年、大阪市生まれ。東京芸術大学及び同大学院に学ぶ。西洋の現代作曲技法を学ぶ一方で、在学中よりアジアの伝統音楽、宗教、美学、宇宙観等に強い関心を抱き、そこから導いたヘテロフォニーなどのコンセプトにより、今日まで多数の作品を発表している。

93～94年、オーケストラ・アンサンブル金沢のコンポーザー・イン・レジデンス。

94～97年、東京交響楽団のコンポーザー・イン・レジデンス。

近年、海外においては、ウルティマ現代音楽祭（オスロ）、「ノルマンディの10月」音楽祭（ルーアン）、アルディッティ弦楽四重奏団、クロノス・カルテット、ELISION、ハノーヴァー現代音楽協会等から新作の委嘱を受け、ウィーン・モデルン音楽祭、「ワルシャワの秋」現代音楽祭、MUSICA・ストラスブール音楽祭、ブリスベイン音楽祭、ミュージック・フロム・ジャパン等において作品が演奏されている。

また2000年より、いずみシンフォニエッタ大阪音楽監督を務めている。

現在、東京音楽大学教授、(社)日本作曲家協議会理事。

主な受賞 日本音楽コンクール作曲部門第1位（1974） エリザベート国際音楽コンクール作曲部門大賞（1977・ブリュッセル） ルイジ・ダッラピッコラ作曲賞（1977・ミラノ） 尾高賞（1988・1992・1993） 中島健蔵音楽賞（1990） 京都音楽賞 [実践部門賞]（1991） 日本現代芸術振興賞（1994） 第31回エクソンモービル賞（2001） 第3回別宮賞（2002）。

以 上

(ご参考)

サントリー音楽賞について

(財) サントリー音楽財団では、1969年の設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人又は団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。賞金は700万円。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫 (ピアノ・チェンバロ・指揮)
第2回	1970年度	堤 剛 (チェロ)
第3回	1971年度	三谷 礼二 (オペラ演出)
第4回	1972年度	小川 昂 (理論・評論)
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会 (国際基督教大学)
第6回	1974年度	秋山 和慶 (指揮)
第7回	1975年度	栗林 義信 (声楽) 山根 銀二 (評論)
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子 (声楽)
第10回	1978年度	松村 禎三 (作曲)
第11回	1979年度	吉原 すみれ (打楽器)
第12回	1980年度	妹尾 河童 (舞台美術)
	特別賞	江戸 英雄 (第1回日本国際音楽コンクール会長)
第13回	1981年度	柴田 南雄 (作曲)
第14回	1982年度	外山 雄三 (指揮)
	特別賞	原 清 (ザ・シンフォニーホール建設グループ代表)
第15回	1983年度	鈴木 敬介 (オペラ演出)
第16回	1984年度	豊田喜代美 (声楽)
第17回	1985年度	日本テレマン協会 (室内管弦楽団・合唱団)
第18回	1986年度	内田 光子 (ピアノ) 若杉 弘 (指揮)
第19回	1987年度	岩城 宏之 (指揮)
第20回	1988年度	林 康子 (声楽)
第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)

- 第23回 1991年度 尾高 忠明 (指揮)
- 第24回 1992年度 練木 繁夫 (ピアノ)
- 第25回 1993年度 五嶋みどり (ヴァイオリン)
- 特別賞 ウォルフガング・サヴァリッシュ (指揮)
- 第26回 1994年度 和波 孝禧 (ヴァイオリン)
- 第27回 1995年度 今井 信子 (ヴィオラ)
- 第28回 1996年度 園田 高弘 (ピアノ)
- 湯浅 譲二 (作曲)
- 第29回 1997年度 東京交響楽団
- 第30回 1998年度 林 光 (作曲)
- 第31回 1999年度 三善 晃 (作曲)
- 第32回 2000年度 飯守泰次郎 (指揮)
- 第33回 2001年度 一柳 慧 (作曲)
- 第34回 2002年度 小澤 征爾 (指揮)
- 木村かをり (ピアノ)
- 第35回 2003年度 野平 一郎 (作曲、ピアノ)

- 特別贈賞 1979年6月 巖本真理弦楽四重奏団
- 〃 1997年8月 黛 敏郎 (作曲)

以 上